

# 芦屋室内合奏団第38回定期演奏会ご案内

❖日時：平成16年11月21日(日) 13:00開場  
13:30開演

❖場所：神戸ファッション美術館オルビスホール  
神戸市東灘区向洋町中6-9 TEL 078-858-0055  
R 神戸・六甲アイランド内

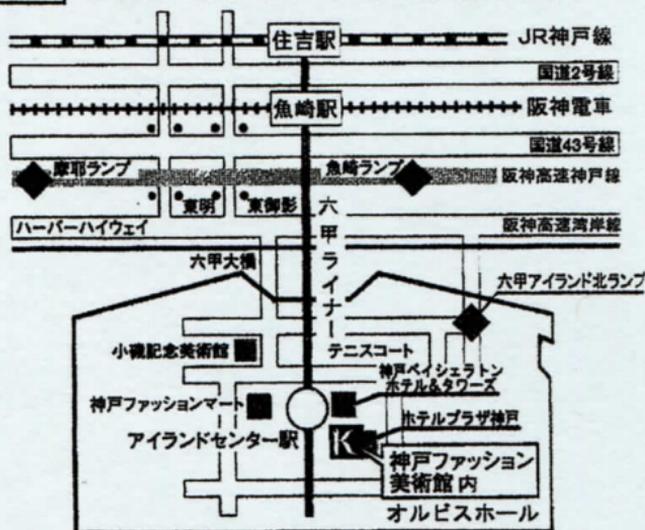
JR「住吉駅」または、阪神「魚崎駅」のりかえ  
六甲ライナー「アイランドセンター駅」下車南東すぐ

❖演奏曲目：

- ◆ A. ドボルザーク 弦楽セレナーデ Op. 22  
" 2つのワルツ Op. 54
- ◆ J. S. バッハ ブランデンブルク協奏曲 No. 4
- ◆ ドビュッシー、フォーレ、ゴダール (フルーツ小品曲)  
フルーツ独奏 谷 敏子、知沢由維  
指揮 酒井睦雄(相愛大学教授)

**入場無料**

お誘いあわせの上、ご来場ください



[神戸・六甲アイランド]

お問い合わせ：福永 Tel 06-6833-9660

E-mail: fukunaga@amy.hi-ho.ne.jp

芦屋室内合奏団  
第38回 定期演奏会



神戸ファッション美術館 オルビスホール

2004年 11月 21日(日)

開場 13:00

開演 13:30

本日は、芦屋室内合奏団の第38回定期演奏会にお出でいただきまして、ありがとうございます。

今回は、前半はフランス留学帰りの女性フルーティストお二人をお迎えして、フランスの薫り豊かな小品の数々とパッサカリアを、又後半はドヴォルジャーク没後100年ということで、弦楽合奏の名曲「弦楽のためのセレナード」等を選びました。

当団も来年は40周年を迎えますが、永年に亘り当団を暖かく見守ってくださるご来場の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

2004年11月 芦屋室内合奏団 団長 青柳 良  
団員 一同

PROGRAM

- C. ドビュッシー** 小舟にて (「小組曲」より)  
フルート 谷 敏子、知沢 由維
- B. ゴダール** 子守唄 (オペラ「ジョスラン」より)  
フルート独奏 谷 敏子
- G. フォーレ** シチリアーノ (劇付随音楽「町人貴族」より)  
フルート独奏 知沢 由維
- J. S. バッハ** ブランデンブルク協奏曲 第四番 BWV 1049  
I. アレグロ II. アンダンテ III. プレスト  
ヴァイオリン独奏 戸倉 啓子 フルード 谷 敏子、知沢 由維

♪ 休憩 ♪

- A. ドヴォルジャーク** 二つのワルツ 作品 54  
I. モデラート イ長調 II. アレグロ・ヴィヴァーチェ ニ長調
- A. ドヴォルジャーク** 弦楽のためのセレナード 作品 22  
I. モデラート II. ワルツ III. ヴィヴァーチェ  
IV. ラルゲット V. アレグロ・ヴィヴァーチェ

指揮: 酒井 睦雄 芦屋室内合奏団



■ C. ドビュッシー 小舟にて

クロード・ドビュッシー(1862-1918)は、早く音楽の才能を現し十歳でパリ音楽院に入学が許可された。マラルメのサロンに参加し象徴派詩人と交わる。彼らと同じくワーグナーに傾倒したが、やがてその劇的表現の音楽からは離れていくことになる。パリ万博でガムランなど東南アジア音楽に出会い強い影響を受け全音音階の創造、中世旋法、五音音階の使用などにより、ロマン派音楽から脱却した、無限感や神秘性も持った独自の音楽を生み出していった。

「小舟にて」は青年時代の1888-89年に作曲したピアノ連弾曲集「小組曲」の最初の一曲。H. ピュセールが管弦楽用に編曲している(1909)。アルペジオ(分散和音)のさざなみに乗ってフルードがバルカロール(舟歌)を奏でる。中間部では、にわかに波立ち小舟は揺さぶられるが、やがて波は元のように静かにおさまるのである。

## ■ B.ゴダール 子守唄

バンジャマン・ゴダール(1849-95)は、パリ音楽院でヴァイオリンと作曲を学んだ。ロマンティックな美しい旋律が特徴で、標題的交響曲、室内楽曲、たくさんのピアノ曲、歌曲、オペラには「酒保商人」、そして「ジヨスラン」(1888年初演)がある。その中の子守唄が単独で、「ジヨスランの子守唄」として今では最も知られている。導入部分があつてから、転調しテンポが動き出す…そして奏でられるメロディーは、誰でも一度聴いたら忘れられない魅力がある。

## ■ G.フォーレ シチリアーノ

ガブリエル・フォーレ(1845-1924)は、九歳でニーデルメイエ音楽学校(パリ)に入りサン=サーンスにも学んだ。1871年設立の国民音楽協会に参画、パリ マドレーヌ教会オルガニスト、パリ音楽院教授・院長を歴任。特に歌曲、ピアノ曲、室内楽曲に傑作を残した。ドビュッシーに先行しフランス近代音楽の基盤を作った。

「シチリアーノ」はシシリア島の農民舞曲でゆっくりとした8分の6拍子、付点つきリズムが特徴。劇付随音楽「町人貴族」(1893)の為に書かれ、同「ペレアスとメリザンド」(1898)の間奏曲にも使用されている。チェロとピアノのためにも編曲している。哀愁を帯びた美しい音楽であり、叙情豊かなフルートの歌にぴったりだ。

## ■ J. S. バッハ ブランデンブルク協奏曲 第四番 BWV 1049

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)は1721年、ブランデンブルク辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒに六曲の合奏協奏曲を献呈している。「種々の楽器による六つの協奏曲」という原題通りどれもバラエティに富んでいるが、旧作の加筆・再編で、バッハ自身による「協奏曲名曲選」の趣がある。

第四番は原曲では、独奏ヴァイオリン、2つのリコーダー、それに弦合奏、通奏低音の編成である。第一楽章、アレグロ、8分の3拍子。田園舞曲のような快活さ。第二楽章、アンダンテ、ホ短調、4分の3拍子。合奏とソロがフォルテとピアノの対比で悲歌を奏でる。第三楽章、プレスト、ト長調、2分の2拍子。ヴィオラから始まるきびきびしたフーガ。独奏ヴァイオリンは、アレグロ中でもプレスト中でもつむじ風のような超絶パッセージを披露する。

## ■ A. ドヴォルジャーク 二つのワルツ 作品 54

アントニン・ドヴォルジャーク(1841-1904)の没後100年に今年にあたる。

プラハのオルガン学校で学び、チェコ人の寄付により建設が計画されていた国民劇場の仮劇場オーケストラのヴィオラ奏者となる。その指揮者で国民音楽の創造に腐心していたのがスメタナであり、ドヴォルジャークは強い影響を受けた。二人ともチェコ国民音楽の生みの親である。

「二つのワルツ」はピアノ曲集「八つのワルツ」の二曲を弦楽用に編曲したものでボヘミア民謡のような楽しい曲である。このように、ドヴォルジャークにはピアノや歌の曲を弦楽や管弦楽に編曲したものが多く、当時流行作家で多作を求められていたためもある一方、民族的題材のイメージの拡大や味付けをいろいろな形式で試みていたのだろう。

## ■ A. ドヴォルジャーク 弦楽のためのセレナーデ 作品 22

1873年に結婚、75年にはオーストリア文部省に認められ、それまでの収入の倍以上の国家奨学金を受けることになったドヴォルジャークは、大張り切りで次々と作品を発表していった。この「弦楽のためのセレナーデ」は、わずか12日間で書き上げたという(1875年5月3日から5月14日)。

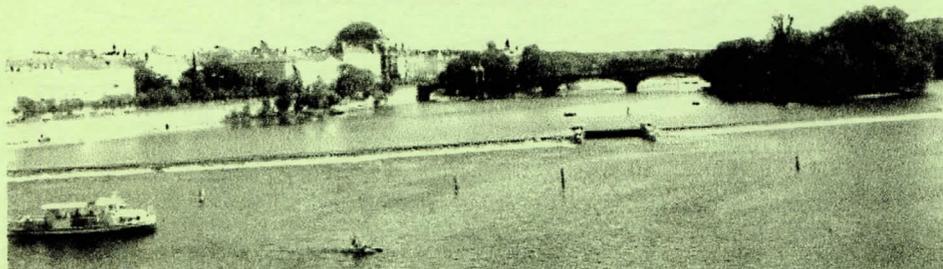
セレナーデは夕べの音楽、歌曲では「夜、恋人の窓辺で歌われる愛の歌」。ドヴォルジャークが最も幸せだった時でもあり冒頭から優しい愛情のこもった旋律が流れ出す。五つの楽章を通じて詩情と自由闊達な躍動感がある。ヴィオラ・チェロ・バスも効果的に使っていて厚みのある豊かな響きがする。後世ながく人気を博している名曲である。

ドヴォルジャークには「管楽のためのセレナーデ」もあり(作品44)、こちらはしっとりとした「夕べの音楽」だ。

尚、ドヴォルジャークは音楽の他は、鳩、それに鉄道を熱愛したということである。弦楽セレナーデの中にも、蒸気機関車の轟進する走りや汽笛、客車の台車が線路の継ぎ目を打つリズムなどが聞こえる、と言う人もいる。

R.O.

■写真は2004年8月鳥丸氏撮影  
(表紙)無名画家によるプラハ城と  
聖ヴィート大聖堂  
(左頁)プラハ市庁舎の写真壁画  
ドヴォルジャーク(右)とスメタナ  
(左)カレル橋から望むヴルタヴァ  
(モルダウ)川。ドヴォルジャーク  
はこの河畔の寒村に生まれた。  
モルダウはチェコ音楽の母だ



■谷敏子 Toshiko Tani フルート

相愛大学音楽学部器楽学科管楽器専攻卒業。同大学音楽専攻科修了。その後渡仏。パリ・エコールノルマル音楽院にてピエール・イヴ・アルトーの下で研鑽を積む。フルート新人演奏会、京都芸術祭「新進演奏家によるデビューコンサート」、なにわ芸術祭「新進音楽家競演会」、「沙羅の木会」主催のコンサート、フランス・クールシュベールの音楽会等に出演。第2回万里の長城杯学生の部ソロ部門・アンサンブル部門、共に第2位(1位なし)。これまでに、生瀬英津子、若林正史、伊藤公一、ピエール・イヴ・アルトーの各氏に師事。YMCA 音楽院フルート科講師。アンサンブル「フレーズ」メンバー。音楽療法活動も行っている。

■知沢由穂 Yui Chizawa フルート

3歳よりヴァイオリンを始める。13歳のときフルートに転向。1995年、津田塾大学学芸学部数学科に入学。1999年、同大学を卒業。同年渡仏し、パリ・エコール・ノルマル音楽院に進学。2000年6月、ディプロム・上級教育課程獲得。2001年6月、ディプロム・上級演奏課程獲得。2002年3月、同音学院高等演奏科を首席卒業。フランス国内のコンクールにおいて上位入賞。また、2000年6月、パリ・シテ・アンテルナショナル・デザールにおいて、2002年12月、サル・コルトーにおいてソロ・リサイタルを開催。2004年3月に日本に帰国。これまでにフルートを阿部博光、工藤重典、ミッシェル・デボスト、ヴァンサン・リュカ、ピエール・イヴ・アルトーの各氏に師事。室内楽を、セルジュ・ブラン、クリスチャン・イヴァルディの各氏に師事。

■戸倉啓子 Keiko Tokura ヴァイオリン

大阪教育大学特設音楽弦楽部卒業。NHK 新人演奏会出演。元京都市交響楽団団員。1994年より田中敏子氏に師事しながら短期間ボストンで、ボストン響のヴァイオリン奏者 S.ローテンバーク氏と M.スピーカー氏のレッスンを受ける。1996年に名古屋・東京、2000年に東京でリサイタルを行う。

■酒井睦雄 Mutsuo Sakai 指揮

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に師事。71年より相愛オーケストラ指揮者、77年ザルツブルクにてO. スイトナー氏に師事。同年、東京にてS. チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いてドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団団員とともにニューイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、74年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、90年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

■芦屋室内合奏団

音楽監督 : 酒井睦雄  
 団長 : 青柳良  
 コンサートマスター : 鳥丸安雄  
 マネージャー : 福永精一  
 部長 : 中田和夫

ヴァイオリン : 鳥丸安雄 藤本恭子 福永千江子 戸倉啓子  
 中田久仁子 青柳良 石田美里 山田美代子  
 ヴァイオリン/ヴィオラ : 竹村久美子 大内隆一(クラリネット)  
 ヴィオラ : 福永精一 音村圭一郎  
 チェロ : 鳥丸直子 宮崎晴夫 堀田一之  
 コントラバス : 中田和夫  
 チェンバロ/ピアノ : 小津久子

来年は合奏団創立四十周年!

次回演奏会のお知らせ ♪♪♪ 芦屋室内合奏団 第5回 春のコンサート ♪♪♪

2005年 4月 29日(祝) オルビスホールにて

■ 日程、会場は変更になることもございますので、ご了承ください ■